

『あすの道南を拓く会』発足について

代表幹事 金子公彦

道南会は、北海道道南地区関係者で、なお且つ首都圏に居住または勤務されて居る有志によって組織されている親睦団体です。他にも首都圏を拠点として活動されている道南地区関連の団体はその数五〇を超えております。しかし、同郷でありながら各団体が連絡を取り合ったり親睦を深める場を設けることがこれまでありませんでした。

その度、首都圏を拠点とする道南地区の小・中・高・大学等の各同窓会、ふるさと会など同郷関連の各種団体(含む函館市東京事務所)の代表者に三回をお集まり戴きまして、新しい組織「あすの道南を拓く会」を発足することが決まりました。

同じ道南地区にゆかりのある各団体が、人的交流、会員相互間の親睦、情報交換など横の繋がりを図ると同時に、道南地区の発展と活性化に多少なりとも寄与することが出来れば幸いに存じます。

道南会自体は個人の集まりですが、この「あすの道南を拓く会」は、実質的には各団体の代表者・窓口担当者による「道南地区首都圏連絡協議会」と言った色彩の会になります。

なお、従来の各団体の独立性、諸活動を妨げるものではありません。当然、各団体毎の合理的運営、活性化と展開、団体相互間の友好関係を図ることは従来と変わることはありません。

現在はまだ新しいオフィスを構えるまでに至っておりませんので、中部高校の白楊ヶ丘同窓会東京支部事務所
〒一六〇〇〇三三
東京都新宿区新宿一・一三・八
葵ビル三階(〇三三三五一九九六六)、
e-mail:kancho-tokyo@tdn.ne.jp
を仮事務所と致します。

協議の結果、組織は以下のように決定しました。(注:敬称省略)

- 顧問 中村隆俊、弦巻鋼男
- 早坂茂三、二上達也
- 会長 長・田沼修二

- 副会長 新谷義克、前田匡子、田代美沙子、葉袋 泰、小坂鉄雄
- 代表幹事 金子公彦
- 幹事 小林嘉則、板垣寿見子、島田瑞子、吉田 修
- 事務局長 川守田孝平
- 事務局 福津達男、瀬田松吉昭、金子 稔、加納元雄、土橋道子、梅田やよい、福田裕子、川口嵩子
- 監事 新山春一

また本会を円滑かつ有効に運営して行くために「運営委員会」を設け、更に、ペリー来港一五〇周年記念、函館開港一五〇周年記念行事等への参画支援など、各テーマに関して協議する「分科会」を置きます。

発足したばかりのよちよち歩きの会ですが、郷土出身の皆様方の暖かいご支援、ご協力を戴き、道南地区の発展に尽力できることを願っております。

新幹線青函同時開業へ

平成十六年度国家予算も、恒例の年末編成作業である財務省内示と復活折衝を経て決定しました。その中に「青函トンネルにおける新幹線・貨物鉄道共用走行事業化調査」として予算が認められました。この予算は平成十七年度整備新幹線

工事の本格着工を前提としたものであり、政府と与党整備新幹線建設促進プロジェクトチームおよび与党政務調査会の代表との間で合意されたものです。

北海道民なかでも函館市民と近郊町民の悲願達成であり、新幹線の青函同時開業に向けて展開してきた運動の大きな成果で、かつ大きな前進であります。

このような動きに合せて、近郊の町の合併見通しですが、長年にわたり、函館広域市町村圏として連携してきた上磯町と大野町が合併を協議しており、また、七飯町は鹿部町との合併を協議中であります。それぞれ実現間近しの情勢にあります。

また一方、新幹線の青函同時開業が実現すれば、全国各地から注目されることはもちろんのこと、人・物・情報の交流とネットワークが広域化することに合わせ、今後の町村合併を礎として、もっともっと日常的な交流が深まり目線が一致することにより、自治体住民に共通の夢が芽生えることが期待されます。



「北の大地 北海道」まであと68km
●●●●●●●●●● 約150kmのうち、77.7%

新「函館市」誕生へ！

函館市役所東京事務所長 酒井哲美

函館が今迎えている市町村合併は、渡島半島東部の津軽海峡から北部の噴火湾沿いにある戸井町、恵山町、樞法華村、南茅部町との一市三町一村の五市町村合併です。(次頁参照)

既に法定の合併協議会を設立し、四回の協議会を開催し基本事項について合意に達しています。基本の合意のひとつ「合併の方式」は、亀田郡戸井町、恵山町、樞法華村、茅部郡南茅部町を廃し、その区域を函館市に編入する「編入合併」とする。

次に「合併の期日」は、「平成十六年十一月一日」を目指す。そして「市の名称」は「函館市」とする。「事務所の位置」は「現函館市役所」の位置とする。戸井町、恵山町、樞法華村、南茅部町の「所有する財産」は、「すべて函館市に引き継ぐ」ものとする。

以上が基本合意事項として確認されていますが、現在、市町村建設計画の策定をはじめ、行政運営上の各種制度の統一や市町村それぞれ独自の慣行の取り扱いなど約三十項目について協議を進めております。今後、各市町村での合併の協議会

議決、北海道議会議決や国での法定の手続きなどを経て、総務大臣の告示により平成十六年十二月一日の合併が実現し、新「函館市」が誕生する運びとなります。

今何故この地域との合併なのか、理解

が少しでも深められるよう、一般論での内容を紹介したいと思います。まず、

合併の基本かつ重要なことは、市町村住民の意思が最も尊重されなければならないことは言うまでもないことです。また、現在、国も都道府県も市町村においても、長引く景気低迷による税収の大幅減少により、行財政運営は大変厳しい実態にあります。加えて社会的には少子・高齢化

により将来に大きな課題が投げかけられ、さらに地方分権型社会に突入し、全ての自治体は自立し自らの意思決定が問われる時代となっており、行政の自己決定、自己責任という政策立案と遂行能力が求められている状況にある訳です。そして

行政には、常に公平・公正に、しかも効果・効率的に、広く地域住民福祉の向上を図るべき大変大きな役割があります。そうした延長線上に、日常生活圏の拡充と交流の活性化という広域的な観点とスタンスが生じ、広域的行政運営の「合併」という二文字に双方の住民意識と目線が一致してきたものと思われまます。

また、新しいまちの基本方針としての将来像や基本目標等が次のように決められました。将来像のフレーズは、「豊かな海が未来を拓く ふれあいとやさしさに包まれた世界都市」です。このように、

五市町村は豊かな海を基盤として拓け、

豊富な水産資源と自然環境により発展してきた地域です。さらに、「海」をキーワードに国際的な水産・海洋学術研究都市と国際観光都市に夢を託す函館市は、合併により、新たな地域の魅力と活力を創出し英知を出し合い、「海と共生し 歴史をたどり 人と人がふれあう地域づく

り」を目指す五つの基本目標とその実現に向けた具体施策を決めました。

一 多様で力強い産業を振興するまちづくり

国際的な水産・海洋都市の形成、水産業・農林業・商工業・観光の振興など

二 安全で快適な生活環境を充実するまちづくり

自然・地球環境の保全、消防・防災・生活安全の充実、交通・情報ネットワークの形成、適正な土地利用の促進、生活環境の整備充実など

三 やさしさとぬくもりのあるまちづくり

保健・医療の充実、地域福祉の推進、高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉の推進など

四 いきいきと学び地域文化を育むまちづくり

生涯学習の推進、学校教育の充実、高等教育機関の充実と連携の強化

特色ある地域文化の創造など

五 連携と交流によるまちづくり

住民参加の推進、国際交流・地域間連携の推進など

漁業

5市町村の漁業

漁獲量・漁獲高合計		84,953トン		23,223,612千円		漁獲量は全道第4位、漁獲高は全道第2位			
函館市		戸井町		恵山町		樞法華村		南茅部町	
水揚げ金額上位3魚種	1. イカ 27,256トン 4,409,687千円	1. コンブ 1,015トン 1,564,678千円	1. コンブ 737トン 1,267,371千円	1. イカ 3,399トン 356,028千円	1. コンブ 3,856トン 4,893,624千円				
	2. コンブ 723トン 1,164,966千円	2. マグロ 132トン 618,735千円	2. タラ 1,527トン 613,772千円	2. コンブ 187トン 292,201千円	2. イカ 13,817トン 1,282,245千円				
	3. ウニ 32トン 379,730千円	3. ウニ 27トン 241,370千円	3. イカ 3,214トン 515,539千円	3. スケトウダラ 811トン 93,458千円	3. スケトウダラ 5,073トン 627,818千円				

資料：平成13年北海道水産現勢

5市町村の概要

人口、世帯、面積、高齢化率

5市町村計

- 人 □：301,778人
- 世帯数：138,442世帯
- 面積：677.68km²
- 高齢化率：22.1%

平成15年9月末現在

南茅部町

- 人 □：7,453人
- 世帯数：2,520世帯
- 面積：158.36km²
- 高齢化率：27.0%



北東部は太平洋に面し、背後には亀田山脈が迫り、国道278号と道道函館南茅部線の交差点を中心に、起伏に富んだ35kmの細長い海岸線に沿って家屋が連なっており、西は鹿部町と、南は函館市・恵山町・楳法華村と接しています。

楳法華村

- 人 □：1,569人
- 世帯数：570世帯
- 面積：24.92km²
- 高齢化率：27.6%



太平洋に面した地方港湾の楳法華港を有し、海向山の北側麓を中心に、南端に位置する活火山「恵山」の北東側麓から銚子岬にかけた海岸線沿いに家屋が連なっており、南西は恵山町と、北は南茅部町と接しています。

函館市

- 人 □：284,201人
- 世帯数：132,260世帯
- 面積：347.08km²
- 高齢化率：21.7%



津軽海峡に接した重要港湾の函館港を有し、市街地は函館山を要し北東の山岳部へ扇形に広がり、亀田川・松倉川・汐泊川がまちを四分する形で流れ、南に位置する津軽海峡に注いでおり、東は戸井町・恵山町と、西は上磯町・七飯町と、北は南茅部町と接しています。

戸井町

- 人 □：3,868人
- 世帯数：1,382世帯
- 面積：53.05km²
- 高齢化率：28.6%



津軽海峡を挟んで青森県下北半島と17.5kmの距離にある北海道・本州の最短地点である汐首岬を中心に、東西18kmの細長い海岸線に沿って家屋が連なっており、東は恵山町と、北西部は函館市と接しています。

恵山町

- 人 □：4,687人
- 世帯数：1,710世帯
- 面積：94.27km²
- 高齢化率：27.8%



東・西・北の三方を山林に囲まれ、古武井川河口部を中心に、東端に位置する活火山「恵山」の南側麓から日浦岬にかけた20kmの海岸線沿いに家屋が連なっており、北東は楳法華村と、西は函館市・戸井町と、北は南茅部町に接しています。

『会員プロフィール』

安達昌子 函館山の麓の汐見町で、昭和十二年六月兄弟の五番目として生れ、青柳小学校卒業、中学二年昭和二十四年、父（日銀勤務）の転勤で東京に移り住み50年余りになります。男兄弟ばかりの中で育ったので、後に母が、幼い時私は、僕々と云い棒片を持って走り廻り遊んでいた。戦後の物資不足の時代でしたが、夏は海へ、冬はそり滑りと、楽しかった子供の頃は忘れられません。現在は銀行勤務を経て結婚、バツイチに。趣味はハイキング、バスツアー。女一人の気ままな暮しが24年になる。

池田幹雄 昭和三年函館生れ、当時三十才の父は材木商で最も若手の市会議員だった。小学四年に上京、深川で育った私は数年後、函館工業に転校、画家を目指し多摩美に学ぶ、同校卒業から新制作、日本画部（現、創画会）に出品を続け、その傍らデザインの仕事で生活を補った。



今、最も忘れ難いのは、クリネックスティッシュのケース、初デザインを担当した事、そのイメージは、函館港に波うつ海だった。

三十年程続いて図は変わったが、波の印象は続いている。自由学園、女子美大の

教鞭も定年終結、今は唯々画面づくりの一本道。
（社）創画会会員

市川一彦 第二次大戦開戦時東京生れ、父の仕事の都合上、岐阜、秋田、函館と移り、若松小学校を振出しに金華小学校（岐阜）、再び高盛小学校へと転校。後に上京、大学時代に岩船寛氏と交友を持ち四十数年の無二の親友。その縁で道南入社、五年のサラリーマン経験有。現在不動産賃貸とインポート・リポートショップ経営、函館にも物件有り、定年なしの生涯現役。函館は第二の故郷。趣味はカミさんと旅行、ドライブ、映画鑑賞と旨い物食べ歩き。

伊藤 真人 昭和十五年大黒町生まれ。弥生小、愛宕中、函工機械科卒業。父親はブリキ店の跡継ぎだったが、三五才の時徴兵、翌昭和十九年西部ニューギニアで戦病死。地元で就職したが、三五年上京。会社勤務中に、中央大二部電気工学部卒業。二九才で世帯を持ち子供二人。息子は自立したが、妻と娘と妻の母親の四人暮らし。平成十二年一月定年退職、少し間をおき、会社勤務中。クロールの息つきを習得、もつぱら距離に挑戦中です。

上平慶一 昭和十四年七飯村（現在は町、七重とよく間違えられる）で出生。七飯小・中から函館中部へ汽車で通学（従って、放課後は家へ一目散に帰る品行方正の生徒であったが、車中乱読の為近視・乱視となった。大学は仙台で過ごしたが、貧乏学生で温泉など行つたことなし。卒業後、海外に憧れ、在京の商社に入社。念願叶い、シドニー、パハレーンに合計八年弱の在勤。その間各国を旅行した。昨年末第二の職場を六十三歳で退職、年金生活となるが、週三回ほど専門学校の講師などを務めるほか、同年代の方との交流を楽しんでいる。これからは健康に留意し、家内と温泉と内外旅行を楽しみたい。中小企業診断士、産業カウンセラー、消費生活アドバイザー。メールアドレス：nehira-k@kas.koanet.ne.jp

声、今となつては懐しい思い出である。今は余暇に書道に親しみ、七十の手習となつた。

加我光徳 昭和一桁の九年に函館に生まれ千代ヶ岱町に育ち、千代ヶ岱小学校卒業。函館工業から東京の私大に進む。以来機械メーカーで営業屋一本で、主に関東以北を担当。札幌にて定年後、子会社のある弟子屈町にて約二年間を過ごす。趣味は時折絵画鑑賞する程度、最近は中国語会話に少々関心有り、それとカラオケ・食べ歩き。

金子公彦 昭和十五年札幌市生まれ、幌西小学校、啓明中学から函館へ移り、的中学、中部高校時代を函館で過ごす。上京進学後、（株）明電舎に就職し、設計、営業技術、事業部長、常務を経て明電ホイストシステム社長。（株）明電舎顧問。中部高校時代軟式テニスで全道大会優勝、国体出場。最近では歌手や工芸家の後援会長、お酒を飲む「一路の会」会長、観光大使等々奉仕活動や生のジャズライブハウス巡りで多忙。ゴルフも少々。温泉に入り美味しいお酒と料理が大好き。

荻野幸平 昭和九年滋賀県能登川町に生れ、父の仕事の関係で二才で青柳町に移住し、遺愛幼稚園、青柳小、市立中、西高を経て、学卒後、衣料品の小杉産業に勤務、退職十年になる。両親が関西弁で会社勤務中も社内、取引先等関西人が多く、方言は早くから気にならず、函館弁、関西弁、標準語と抵抗感はなかった。函館市民球場からの喚声、函館公園の花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

川口嵩子 一九四二年函館青柳町で生まれ、小樽で終戦を迎える。柏野小、的場中、東高を卒業。一九六六年『東京』という言葉につられ主人と結婚、六年後

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

花見客の蛮声、イカ売りのオバチャンの

足立区に住む。娘は独立、夫と長男、二匹の犬【ボメラニアン】の世話に一日を費やす。現在足立区地域振興部支援課の生活リーダー講座を三年前から受け、地域のボランティア活動を行なっています。これからは趣味の日舞、大好きなお酒と旅行を楽しんで行きたいと思えます。

河口義男 『振りむけば函館の街遠霞』。

大正十年函館東雲町生れ高砂小、函商卒。昭和十四年就職で東京に出る。連絡船が防波堤を出て左へ廻るともう函館の街は見えない。昏れゆく函館山を振り返る。何時帰れるか。あれから七十年遠霞に消えた波乱万丈の人生か。

『菊薫る傘寿』これからが青春』。俳句句会、吟行旅行ときれいなおばさんたちと談笑しながら歩く。傘寿を超えこれからが青春。悠々閑閑、日々好日。ボケ爺さん。頑張っています。

小坂鉄雄 一九三三（S八年）亀田に

生まれ、亀田小、桐花中、函工（土木科）を二十七年に卒業、進学、建設関係に進む。列島改造ブームに乗り、主に都内にて昼夜に渡り地下深く（モグラ）の如く掘り進み、ようやく地上に出られた時めでたくリタイアとなりました。

今は孫四人とリズムを合わせながら、楽しく元気をもらい生活しております。趣味はゴルフ、旅行。健康と人間関係

を大切にして第二の青春を楽しんで行く事を夢めています。

郷内繁 一九三五年、上磯郡上磯町に

生れ育ちました。上磯小学校・上磯中学校を経て、函館西高へ、そして早稲田大学へ進学。

大学卒業後、アサノコンクリート(株)

へ入社し、一九八七年に取締役に就任。以後六期役員を歴任し一九九九年に退職。その間一九八九年〜一九九四年には東京臨海副都心開発（台場・青海・有明の開発）のプロジェクトに携わり、研修旅行として、二度にわたり世界の有名リゾート地を隈なく旅したことがとても印象に残っています。

現在は、家内と息子の会社の顧問と云うことになって居りますが、実質何にもして居りません。

今は趣味の油絵とウクレレの教室、と同時に体力維持の為、週二〜三回スポーツクラブに通うと云う生活です。

家族は息子三人共独立をしましたので家内と二人暮らしです。

小島幸子 岩内生れ。私と函館の縁は

昭和三十三年結婚と同時に富士萬食品東京(営)開設の為、上京し珍味の草分け、

いかの燻製を卸し販売し、いかの街函館を定着しました。独立後、昭和五十九年港町に「函館まんわ」を設け函館と密着

し多くの人々との交流も深まり、二〇〇二年サッポロビール会では物産販売をさせて頂き、仲間意識も大いに感じました。毎月十八日浅草「旬の市」で函館をPRしたり道産子を誇りとして仕事大好き旅大好き人間です。

小林寅雄 昭和十三年七飯町に生まれ、

函工機械科を昭和三二年に卒業。同時に日立製作所日立工場（日立市）に入社。電機設計部に配属、電動機及び発電機の設計に従事。原発及びビル等の発電設備のシステムエンジニアとして四二年余従事し、平成十年に満六十歳で定年退職、平成十二年に道南会に入会、道南会での出会いと会話を楽しんでいる。七飯には毎年お盆のお墓参りに帰っている。主な趣味は釣り、湖沼、川、海いずれもOK。特に、鹿島灘での投げ釣りは実に爽快。

島田瑞子 昭和十四年札幌生れ、一才

の時函館へ。龍谷幼稚園、東川小、遺愛女子中・高校卒業し、親の反対を押し切って上京。短大卒業後、東宝舞台K・K入社、日劇、日劇ミュージックホール、コマ劇場等の公演の衣裳の仕込みの仕事をして、あまりに安月給の為、父に押し切られてライオン油脂K・K宣伝課に入社。当時獅子てんや・わんやのTV「ジャブジャブショー」でライオンの洗剤のCMの「手」だけ出演、その後旭川出身

の夫と結婚、一男一女に恵まれる。道南会は長く、函館弁で気軽に話せる雰囲気が好き。行事にも、この頃主人と一緒に参加、皆さんと交流を持てる事に感謝です。東川小同窓会の窓口、遺愛同窓会東京支部役員で少しでもお役に立てばと思っています。車の運転、旅行大好き!!

田辺彩子 昭和十二年函館生れ、杉並

町で育つ。柏野小、的場中、東高校と徒歩通学、電車通学に慣れた。東京で短大卒業、自宅が仕事場であった父の雑用専任で練馬区東大泉のアトリエに暮す。十五年程前に品川区五反田に引っ越す。父の作品展、画集制作、鑑定等にかかわる傍ら、宝飾品と雑貨を扱う仕事らしきことを続けている。

道南会で多くの方に出会い、年を重ねることに、ふるさとがますます身じかに感じられ有難く幸せに思っています。

谷口雅典 日本経済新聞子会社で営業

に従事中。日経には販売は必要か?と、思われますが、一般紙とは異なる、化学・ハイブリッド(混合)路線で、若年・女性個人購読層開拓の一七年前誕生した会社です。アト、七年余り、全うする予定です。昭和二六年美唄に生を掛け、父の転勤で、四才の時、函館市民に。港小・中・函中高と、腕白幼少期を過ごす。札幌で一浪後、上京遊学。爾来三十余年、

知友との交流で欠かせない看、当に「ハコダテ弁」をシャベル時。

.....

寺田耕治 昭和四年旭川生れ、釧路日進小から柏野小学校に転校、函商卒、三菱銀行に就職、昭和二十七年東京転勤まで函館でお世話になった。上京後は都内店を勤務、子会社DCS（コンピュータ関連）に、平成四年リタイア、その時人間ドックに、幸か不幸か、結果胃癌の摘出手術。余生の人生設計を変更、多くの知人を財産として交遊を深め、パソコンとへぼ基で頭の体操、スポーツクラブで体力維持に努め、自然と未知の世界を求め、カメラ片手に気儘な旅を続けたい。

中村隆俊 昭和二年瀬棚町に生まれ北檜山小学校を卒業後、三兄弟、親元を離れ函館で教育を受ける。函館東高を経て北大に進学。卒業後兄弟の学ぶ東京医科大学にてインタン内科学教室・病理学教室で研修。研修の傍ら三兄弟は美空ひばりの家庭教師を担当。現在は関東一円に二四病院、十関連施設を経営する戸田中央総合病院グループ会長。三兄弟三グループ併せると一六病院・施設。函館が大好きで道南会副会長、函館東高関東地区同窓会会長として仲間と親睦を深める。

根来美和子 昭和十三年青柳町に生れる。青柳小学校、遺愛女子中学、高校から東京の短大へ。卒業後函館に帰り、北海道拓殖銀行に四年間勤務のち結婚、最初夫の勤務地大阪に在住、その後転勤により東京に移り、以後四十年近く住んでおります。函館は父が長年市役所に勤めていた関係上、活気のある昔の良き時代が懐しく思い出されます。

現在子供二人は独立、孫は二人、夫と共に余生を送っています。趣味は旅行、年二・三回出掛けしております。

濱口光徳 函館市深堀町で昭和二十年生まれ。駒場小、的場中、函工（中退）と進み、その後自衛隊に勤務。昭和四二年姉の仕事を手伝う為上京、現在に至る。趣味は車、バイク（御盆休みには大体バイクで北海道へ行っています）、スポーツは何でもやるのも見るのも大好き。最近嫁に付き合つて、山登り、温泉旅行等々。家族構成は長女は嫁ぎ、嫁と理学療法士の次女との三人家族で慎ましく過ごしています。函館が大好きでテレビ等で写ると釘付けです。

富土昭一 昭和九年大黒町生まれ。幸、船見、西高と函館で過ごし、室蘭工大を卒業して関西本社の企業に就職。富山八年、新潟五年、東京十八年を勤務して本社勤務の為関西へ。姫路、西宮と単身赴任も経験、現在は妻と二人で神戸暮らし。

製鉄機械のメンテが主な仕事だった為、全国を飛び歩いていたが、平成十年に退職。函館をおもう会や同窓会の友と、ゴルフ、麻雀、カラオケ等で毎日を楽しんでる。毎年二、三回は墓参も兼ねて帰函し、旧友と再会できるのが楽しい。

松代晃明 一九三七年函館市地蔵町（現豊川町）生れ、東川小、附属中、武蔵野音大、英国王立音大大学院で学ぶ。一九六二年から三五年間読売日本交響楽団クラリネット奏者。同時に国内各地のほかイギリス、アメリカ、カナダ、ノルウェー、イタリア、台湾でソロ活動を行ってきた。一九九七年三月オーケストラを辞職し、四月から北海道教育大函館校教授となり、二〇〇三年三月停年退職するまで、生れ故郷で六年間通した。在函中、函館市芸術ホール管弦楽団を創立、指揮者・ミュージックアドバイザーを務めていた。現在は洗足学園音楽大学で講師を務めている。

というわけで仕事は音楽。クラリネット奏者、指揮者、編曲家です。

社丸全商事（株）の社長として勤務している。特に米国・A時代には大地震、暴動、湾岸戦争等海外生活者の怖さ、楽しさを十分体験した。一人息子は独立し、妻と二人暮らしでお互い邪魔をせぬ様努力の日々である。

松田昇 中国からの引揚げで函館へ。湯川小・中、函工高電気科（一回生）を卒業。放送ならぬ法曹を志して上京。働しながら大学を出て司法試験に合格。一、二年のつもりだった検事の事はすぐに天職となり、三三年間悔ない日々を過す。特捜部では、日通、ロッキード、リクルートと一〇年おきの大事件に遭遇。児玉善士夫や田中角栄元首相との出会いなど思い出も深い。矯正局長当時、非行少年や受刑者の更生に黙々と励む職員姿に感動。平成八年、預金保険機構へ。預金者の守護神たり得るか。課題は多い（函館観光大使）

三村寿雄 父が厚生省検疫所勤務の為、幼少より港町を転々と渡り歩く。函館での生活は中学・高校の六年間ですが、青春を過ごした函館を故郷と思い、函館人を名のついています。昭和六三年の西高同期会出席をスタートに船見中学の級友に出会い、そして道南会への入会、現在田沼会長の下で常任幹事をさせて頂き日々楽しい出会いを喜んでいきます。

趣味は、ゴルフ・旅行(ドライブ)・食へ歩き。

山下弘治 昭和一二年函館西川町生れ、中学卒業まで七飯町で育ち、函工(機械科)卒業後函館自動車学校に就職。その後ゼネコンに転職し、函館空港第一期工事などに従事後、道路建設会社へ移籍し、函館を離れ、平成十年定年退職まで建設機械の運用管理などに携わる。

二人の子供は独立、現在は妻と二人の気儘な暮らしで、道南会を始め、ふるさと会や同窓会などに参加、同郷の方々と交流を深める一方、好きなゴルフやカメラを楽しんでいる。

山田克明 昭和八年函館市生れ、同九年の大火に遭遇し、中島町に移住して高校卒業まで同所に居住。

卒業後大阪の建設会社に就職。就職難時代会社が倒産、一度帰郷し三十二年再度上京後、教材会社に勤務、四十四年に退職した後、三十四才で独立、現在に至る。

その間オイルショックやバブル崩壊等を何んとか生き延び、紙と鉛筆の時代から電子の時代となり苦勞の毎日、そろそろ潮時かなと思つています。

今後は道南会の皆様と共に第二の青春を謳歌したいと思つています。夫婦二人暮し、子供なし、趣味はゴルフと旅行。

渡辺宏司 昭和六年豊川町生れ。東川小学校に入学、毎日学校で友達と遊ぶのが楽しみ、卒業時に気が付いたら皆勤賞。函館市立中学、高校(現東高)を卒業、その後東京の大学を出て、横浜に住み着いたのも仕事の関係もさることながら、

十五年度夏季懇親会

今年の夏季懇親会は九月六日(土)午後一時から、ホテル「聚楽」で開催、福田裕子さんの司会、中村副会長の開会の挨拶で始まった。

まず田沼会長から「道南会の会員は漸次世代交代がなされており、今後共役員一同、会員の拡大と確保に努力して行きたい。また、会報「道南」では会員のプロフィール紹介を行っていますが、好評なので今後も続けて掲載して行きたい。現在、道南地区の各ふるさと会、小中高の同窓会が首都圏で多くの活動をしているが、横の連繋が少なく、連帯してのふるさとへの貢献が出来ていなかった。此の度、函館市東京事務所のご支援を仰ぎながら、道南会を中心として企業を含めた「道南地区首都圏連絡協議会」を立ち上げて行こうとの機運が高まり、道南会としての課題として取り組んで行きたいと思つている」との挨拶があった。

次に酒井東京事務所長より、函館市の

港町への憧れもあります。真珠・石油・不動産・倉庫と雇われ役員を経て今も週に三日ほど出勤しています。小学校中学高校大学と同期会の世話人を引き受け忙しくしています。趣味は音楽鑑賞で、N響と日本フィルの五十五年会員です。

状況について「今年には函館駅舎の改築が完了し、駅周辺の整備工事も進み、函館空港ビルの整備と共に、新しい時代を迎えようとしている。また将来に向けて合併問題が重要課題であるが、現在恵山町、南茅部町、戸井町、榎法華村との合併協議が進んでおり、函館は大きく変わろうとしている」との報告があった。

続いて弦巻顧問が道南会の発展と会員のご健康とご多幸を祈念して乾杯の発声をされた。

懇談に移り板垣副会長より新入会員の紹介が行なわれたが、中でも九十四才の黒沼善逸さんには感歎の声があがった。また、特別参加として函館港イルミネーション映画祭東京事務局の西田宣善、倉科杏両氏が出席、函館の映画祭について説明と紹介がなされた。

采を受けた。懇親会の中締めは沼崎常任幹事の一本締めで盛会の中散会した。なお懇親会には函館市より、昆布巻といか粕漬が、サッポロビールよりビールが寄贈された。

平成十五年度 夏季懇親会出席者

- 安達昌子、厚谷論、阿部正身、荒木道雄、池上謹之助、池田幹雄、泉龍夫、板垣寺見子、上田英司、上田航、大野信延、尾田アツ子、小山中、笠川雅彦、加我光徳、加藤信利、金谷稔、金田誠一(代理)、川口嵩子、川小ヒナ子、川守田孝平、川守田礼子、北上良夫、歸山武志、黒沼善逸、小坂鉄雄、小島幸子、小林寅雄、小林嘉則、小山育子、酒井哲美、坂本保子、澤株正始、澤株尚子、渋田勝弘、島田瑞子、新谷義克、菅愛子、菅原大作、菅原靖、杉田博子、鈴木勝浩、須藤珠實、相馬正樹、高田和扶、竹中裕行、田中義雄、田辺彩子、田沼修二、田村良人、田村房江、土橋道子、弦巻鋼男、寺田耕治、照井陽子、時田厚子、鳥本玲子、長島康、中濱志津、中村隆俊、中山泰誇、新山春一、沼崎貞良、沼崎茂子、根来美和子、野澤澄子、英慶子、濱光徳、濱本欽彌、早坂茂三、原ヒエ子、原口久江、原田美恵子、比嘉裕子、福島紀、福田裕子、藤

枝良造、二上達也、古井勝春、本間作喜、松浦和彌、松代晃明、松田州平、三浦健藏、三国栄顕、三田英彬、葉袋泰、南谷光一、三村寿雄、宮本章次、三輪光人、森川多一、矢内喜代、矢作勝幸、山木和子、山下弘治、山田克明、山名昭二、吉田房子、若杉康孝、若林英毅、渡辺宏司、渡辺多一 (二〇六名)

〔ゲスト〕手島孝雄、西田宣善、倉科杏 (三名)

新入会員紹介

() 内は出身小学校

池田 幹雄(青柳小) 日本画家
上田 英司(青柳小)
金谷 稔弥(生小) 映画監督
川小ヒナ子(尾白内小) 葉袋さんの紹介
黒沼 善逸(上磯小) 読売を見て満94才
佐藤芙美子(青柳小) 葉袋さんの紹介
田中 義雄(粕野小) 田村さんの紹介
英 慶子(粕野小) 小山さんの紹介
濱 光徳(駒場小) 読売新聞を見て
三田 英彬(粕野小) 鳥本さんの紹介
三輪 光人(久遠小) 読売新聞を見て
森川 多一(湯川小) 加藤さんの紹介
若杉 康孝(若松小) 沼崎さんの紹介
山名 昭二(松風小) 沼崎さんの紹介

道南会行事報告

☆サツポロビール千葉工場見学

八月九日(土) 午後〇時半、台風十号の影響で生憎の強風と雨の中、バスで工

場へ。ビール製造工程を見学の後、吹き荒れる外の景色を眺めながら、出来たての生ビールで喉を潤した。参加者三七名。



☆コスモス鑑賞会(くりはま花の国)

十月十八日(土) どんよりと曇った日、午前十一時京急久里浜駅に集った十五名は、大勢の人波に混ってコスモス園に向った。折り悪しく小雨がバラつく中、百万本が咲き乱れるコスモスを鑑賞した。参加者十五名。



☆中仙道菊まつり

十一月十一日(火)、秋も深まった日、巢鴨の菊まつりに出かけた。真性寺と高



宕寺の境内に展示された見事な菊に見惚れた後、とげぬき地蔵にお参りをし、七十年の歴史があるという店で名物のそばに舌鼓をうった。参加者十五名。

☆高尾山ハイキング

十一月二十二日(土)、秋の山を彩る紅葉を訪ねて、高尾山に登った。良く整備された山とはいえ、足で上がるのは結構な運動だ。もみじ台で鮮やかに燃える色に出合い、上り下り四時間のハイイクで良い汗を流した。参加者八名。



会報「道南」十六年新年号

発行 平成十五年十二月二十五日

発行所 北海道道南会事務局

横浜市鶴見区生麦四一九一

十三一八〇三 川守田 気付

印刷所

(株)ソーラン社
中央区日本橋小伝馬町十六一八